

川崎市が進める ウェルフェアイノベーション

－ 産業と福祉の融合で新たな活力と社会的価値を創造する －



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

川崎市経済労働局
次世代産業推進室ウェルフェアイノベーション担当

川崎市



人口1,503,690人、高齢化率20.1% (H29.10.1)

ウェルフェアイノベーションとは何か

ウェルフェアイノベーション
(welfare innovation)

**産業と福祉の融合による
新たな活力と社会的価値の創造**

ウェルフェアイノベーションとは何か

川崎市では、モノ・サービスを使ったり組み合わせることで、超高齢社会での新しい価値観を作り出すことに挑戦しています。



ウェルフェアイノベーションを実現する3つのキーワード

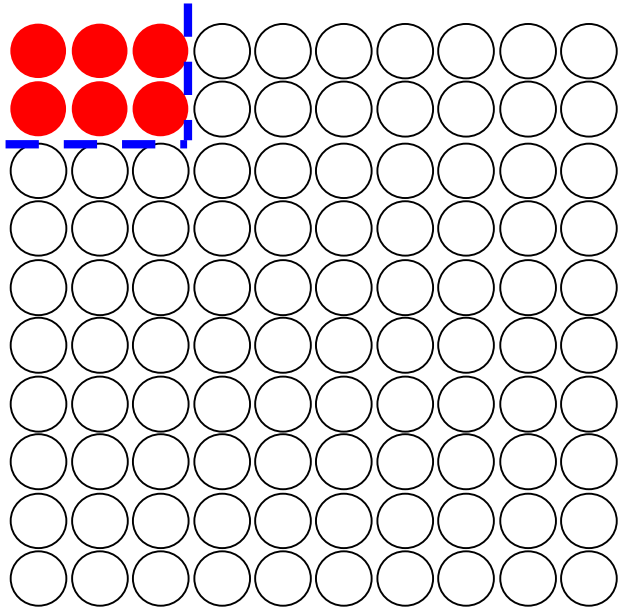
Innovation (イノベーション)

Diversity (ダイバーシティ・多様性)

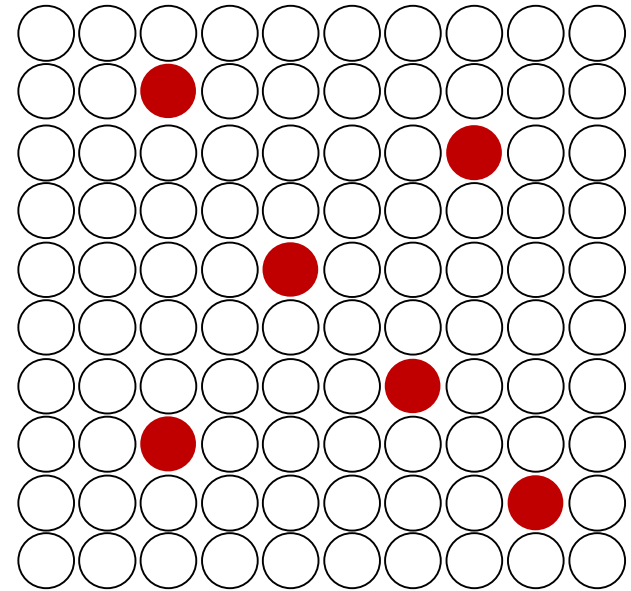
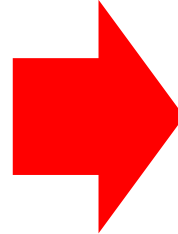
Culture (価値観の形成)

「新しいものの捉え方」
(何かと何かを組み合わせるなど)

多様性を活かした社会へ



分離された社会



混ざり合った社会

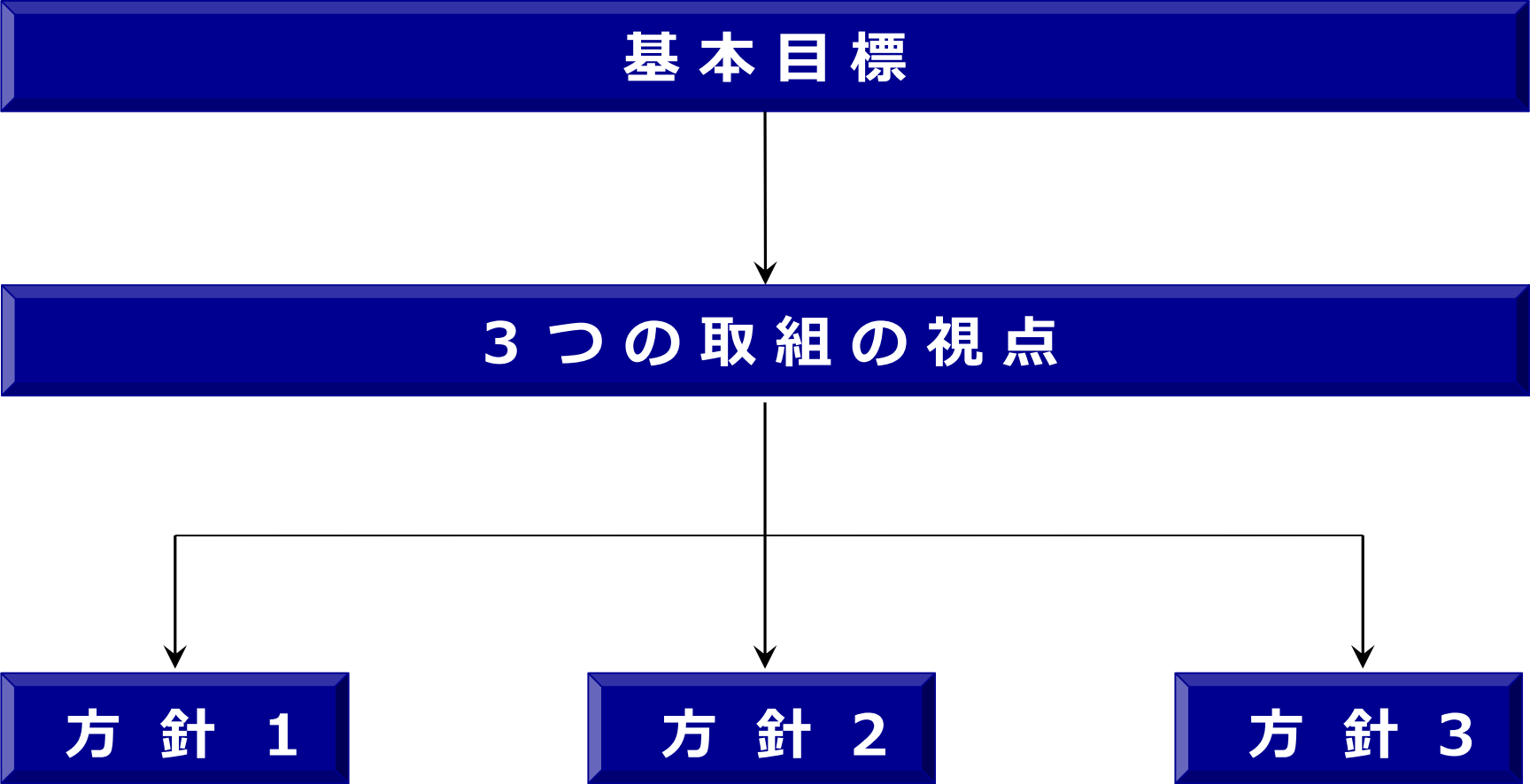
(参考) 全体の6%に障害者も混ざって当たり前前に働く社会づくり

川崎市では、ワクワクドキドキのスポーツ・エンタメの空間で1日就労体験を就労意欲喚起と自己肯定感の回復等を意図して、年間365人を目標に実施しています。



新しいことにチャレンジする
気持ち^が尊重される価値観

計画の構成



基本目標

産業と福祉の融合で新たな活力と社会的価値
を創造する **ウェルフェアイノベーション**の推進

目指す姿

「産業と福祉のハブ機能」を活かし、
当事者視点を重視した製品・サービスが創出・活用されている状態

多様な主体と共創の動きが活発化し、
新たな社会モデルとなる取り組み成果が生み出され続けている状態

取組の視点

【視点1】

「産業と福祉のハブ機能」として、「新しい製品・サービスの創出・市場活性化」と「将来的な福祉課題への先行的な対応」を結びつける。

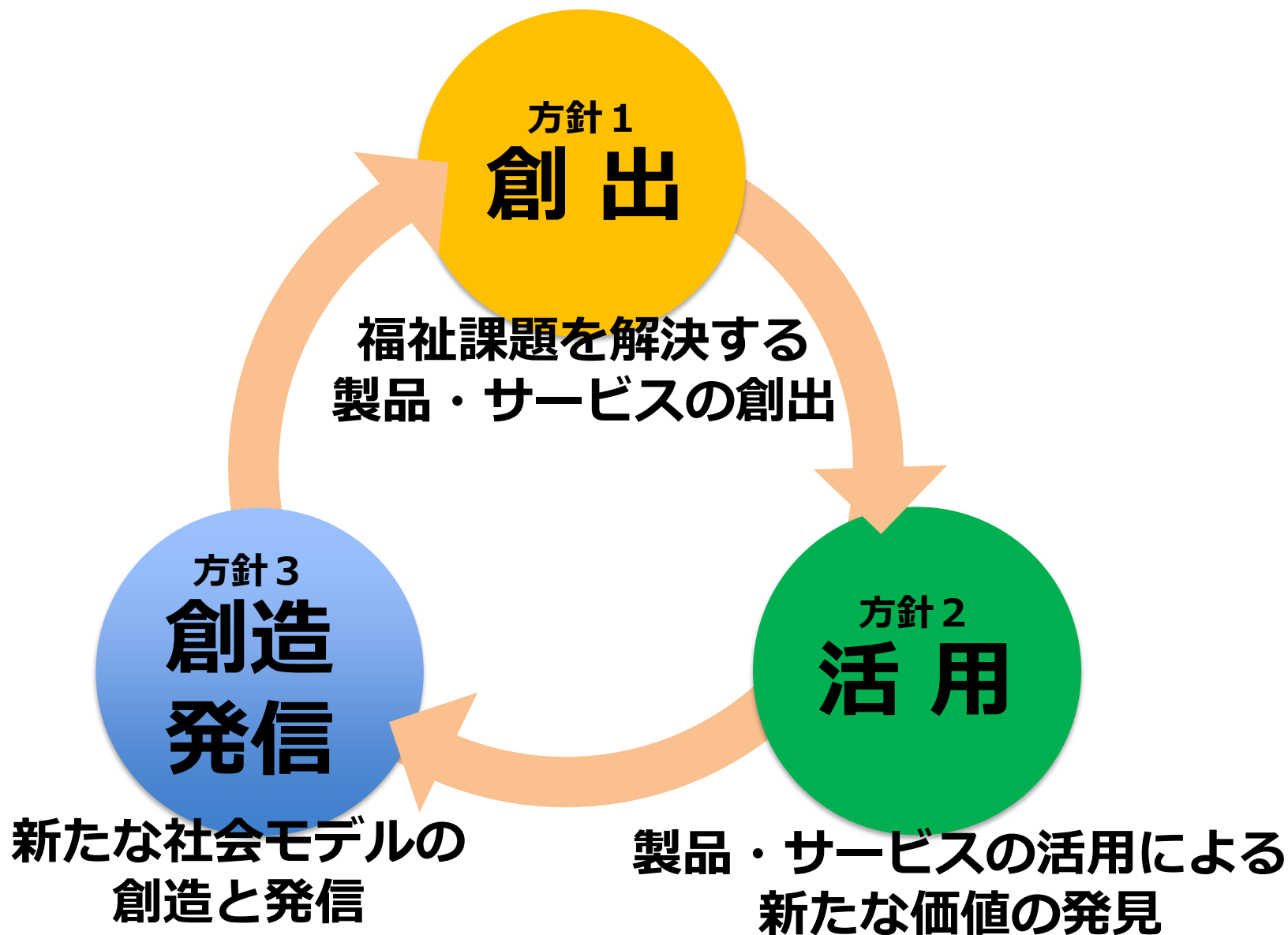
【視点2】

「新たなライフスタイル・ワークスタイルの創造」などの、多様な人が混ざり合い地域で暮らすことのできる社会モデルを構築する。

【視点3】

「地域包括ケアやパラムーブメント施策を具現化する」ことにより、福祉を起点に健康分野などへの波及も見据えた人の生活全般を豊かにしていく取組を進める。

川崎市が取り組む3つの方針



企業、介護福祉事業所など300以上が参加の
ウェルフェアイノベーションフォーラムを運営。

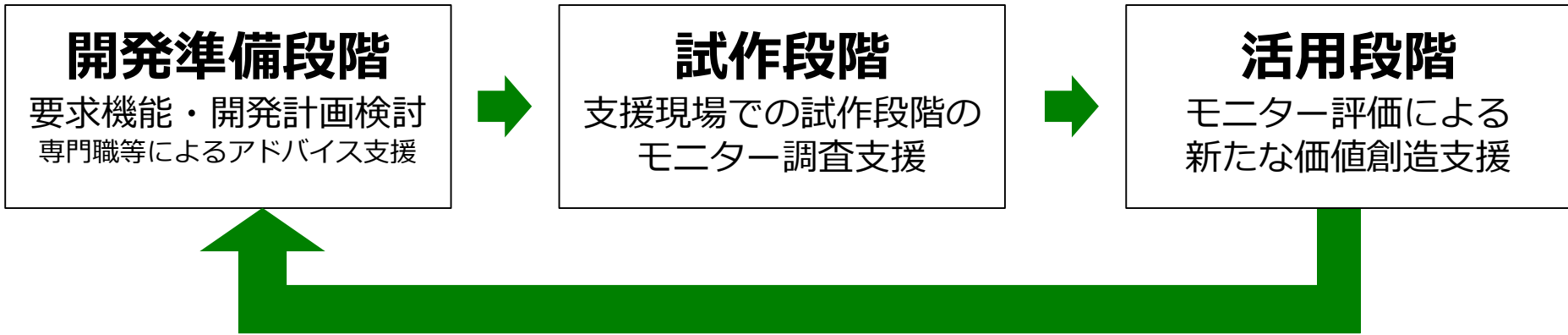
1. モニター評価支援
2. 技術（リハ工学）支援
3. 経費支援（開発・導入）
4. ネットワーク支援
5. 認証支援（KIS）
6. プロモーション支援



川崎市だからこそできること（モニター評価支援）

モニター評価等支援事業

川崎市生活支援機器・施設内支援機器等のモニター評価等支援事業
(2017年4月～)



倫理審査委員会も設置しています。

WAYS

WAYS

KAWASAKI CITY



カッコイイ乗り物で、 外出をもっと楽しむ暮らしを実現したい！

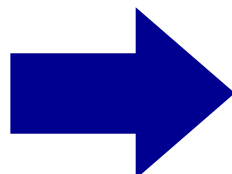


WHILL Model A



**ユニバーサルデザイン
タクシー**

新しい交通サービスを目指した 全国初のモデル事業



高齢者・ケアマネの
試乗体験会

WHILL搭載型
UDタクシーのサービス化

- コース1・・・思い出の鎌倉めぐり（8時間）～建長寺～鶴岡八幡宮～小町通散歩～長谷寺
9,958円（税込） ※4名利用時の料金は1名あたり約2,489円、※90分～1台あたり最大4名まで29,830円（税込）
 - コース2・・・川崎緑地めぐり（4時間）～等々力緑地・市民ミュージアム～生田緑地・川崎市立日本民家園
5,438円（税込） ※4名利用時の料金は1名あたり約1,359円、※90分～1台あたり最大4名まで7,150円（税込）
 - コース3・・・フリーコース（2時間～）～ご要望に応じ、当社でコースを確定致します
3,178円～（税込） ※4名利用時における1名あたり料金、※90分～1台あたり最大4名まで12,710円（税込）
- ※各コース料金は往復料、送迎料、有料道路通行料は含まれません。
※乗車はご自宅からご自宅まで0F299～F2Cが基本です。

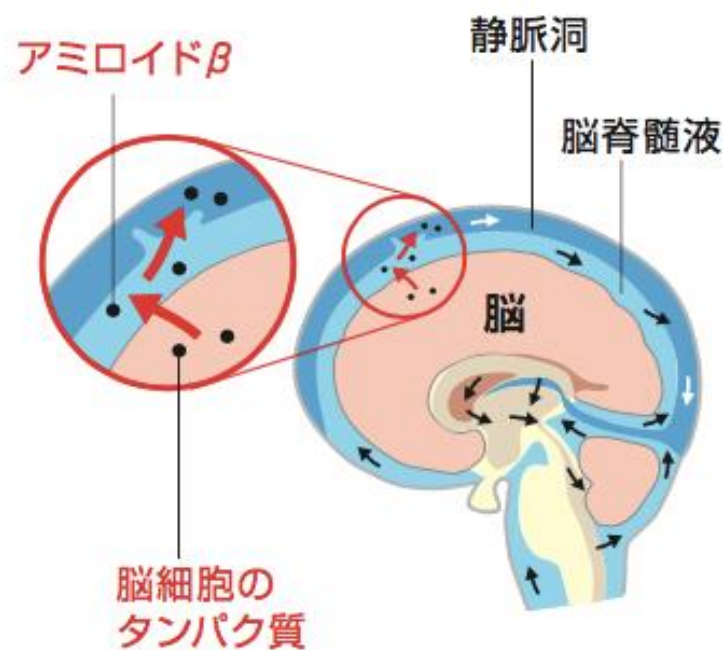
聞こえる環境をつくることで、 コミュニケーション円滑化の実証



睡眠の質を計測機器の活用による 認知症リスクの早期診断・治療促進

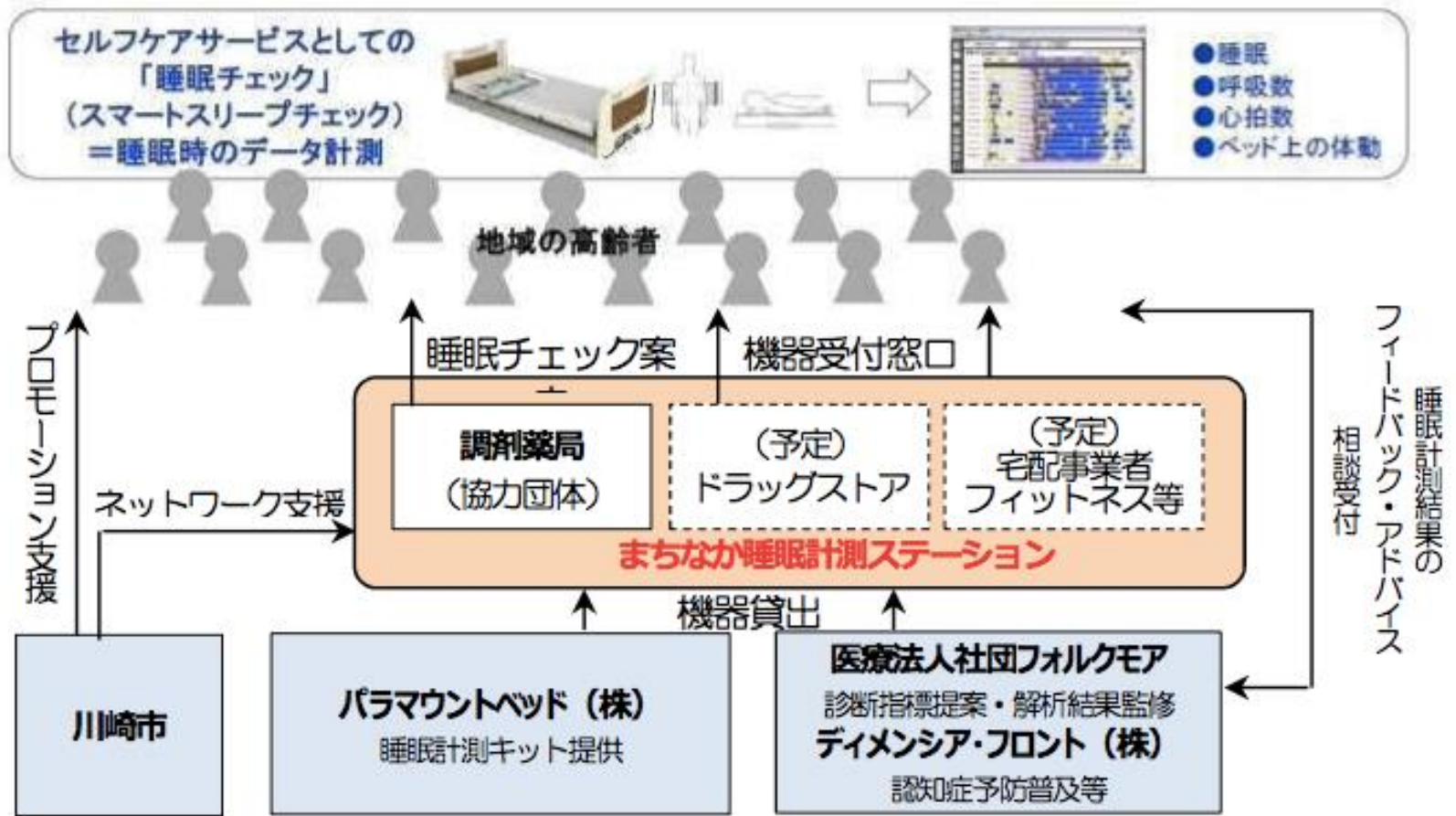


睡眠が見えるセンサー
眠りSCAN®



睡眠不足により
脳内に蓄積するたんぱく質

地域の身近な拠点を巻き込んだ セルフケア意識向上へのヘルスケア産業



排尿・排便を予知・検知する最新機器と、 睡眠が見えるセンサーを組み合わせた実証



排尿予知センサー
Dfree



排便検知センサー
Lifi



眠りSCAN

買い物拠点が近づくにより、
自分で選ぶ買い物を可能にする。



地域の資源が協働で 地域のコミュニティづくりを進める。



買い物の拠点が 地域のコミュニティづくりの拠点になる。



ウェルフェアイノベーションを 進める秘訣

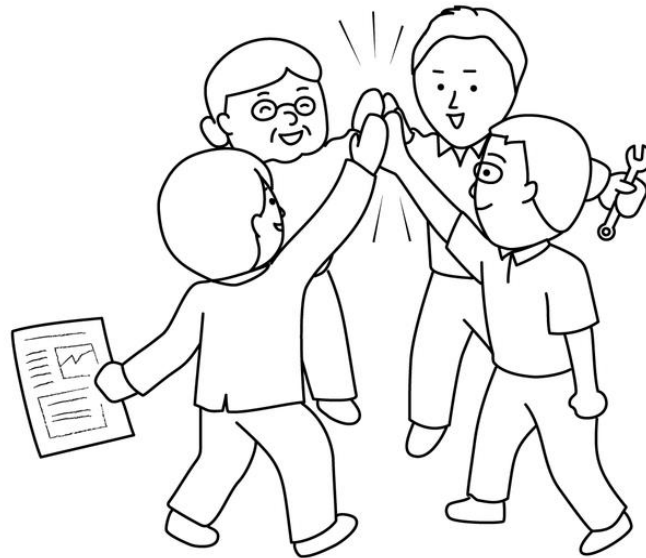
人 モノ・サービス

人 対 モノ ・ サービス

人とモノ・サービス

Welfare innovation Patterns

ウェルフェアイノベーションを生み出す パターン・ランゲージ



ウェルフェアイノベーションを生み出す パターン・ランゲージ

パターン・ランゲージ

対象領域における「経験則」を「言語化」したもの

= 成功に潜む共通パターンを言語 (ランゲージ) 化する

ウェルフェアイノベーションを生み出す パターン・ランゲージ

パターン・ランゲージ

対象領域における「経験則」を「言語化」したもの

= 成功に潜む共通パターンを言語 (ランゲージ) 化する

たくさんのパターンで構成され、それぞれのパターンを

指し示す「言葉」が定義されている

それらの言葉によって、「認識」「思考」「コミュニケーション

」を支援する

ウェルフェアイノベーションを生み出す パターン・ランゲージ

- ・企業が新たな製品・サービスを創造するための「経験則」（コツ）を言語化
- ・ **企業と介護福祉現場とり良い人との共創の形を**を考えるための支援ツール

・企業が新たな製品・サービスを創造する時に、うまくいかない理由がある。

- ① 技術先行すぎて、介護福祉現場と噛み合わない
- ② 個別ニーズに偏りすぎて市場性がない
- ③ 誰のための価値を提供するのか不明確

・一方で、このような問題や悩みに陥らずに、うまく新しい製品・サービスを生み続けている人がいる。その人たちのコツを共有できれば、解決できるのではないか。

- ・そこで、**うまく展開している人たちの経験談から、その秘訣やコツを抽出し、言語化**するパターン・ランゲージの方法で、記述した。

ウェルフェアイノベーションを生み出す パターン・ランゲージ

CORE

使う人にとっての価値

日常との一体感

WillをCanに

ニーズを掴む

その場の感覚

本人に聞く
現場のパートナー

その場に馴染む
行動の背景

ペースを合わせる

できるの持ち寄り
心が動くところ
期待を超える物語

ビジネスの力で生活を支える

実現したい未来
自社の強み
相手の文脈

さらけだす
なるほどのデータ
外の仲間

身近な相談役
体感のリアリティ

いいね！の見極め

可能性を追求する

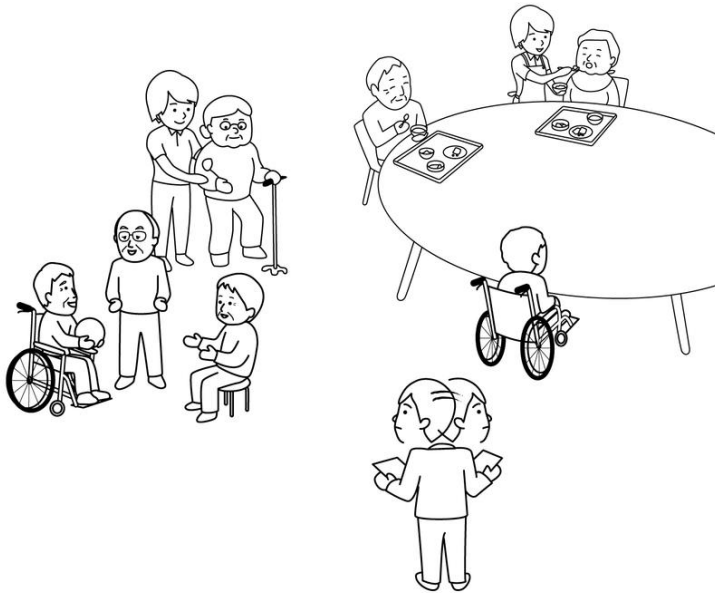
自分だったら
多分やウォッチング
ニーズのストック

アレンジ可能な設計
必要なことだけ
届けるスピード

点から線へ
手軽な使用感
愛されるために

その場の感覚

現場に飛び込み、五感で感じる。



表面的な印象や、世間で言われている情報だけで満足し、実際の状況や本質的なニーズがわからなくなっています。

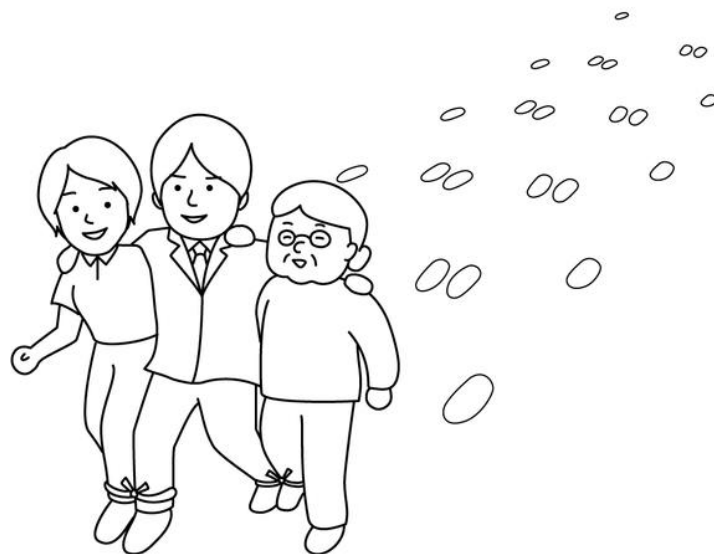
製品・サービスが利用される現場に繰り返し行き、自分事として感じたことを大事にします。

ペースを合わせる

使う人と企業とがペースを合わせて、
より良い製品・サービスを生み出す

製品・サービスを使う人と企業とが共同作業で開発に取り組もうとしていますが、進め方が噛み合わず、共同作業を継続することが難しくなってしまうます。

お互いの事情を共有し、徐々にペースを合わせながら開発を進めます。



いいね！の見極め

人の気持ち、プロセス、製品そのものの共感を生むものは何なのかを冷静にみる。

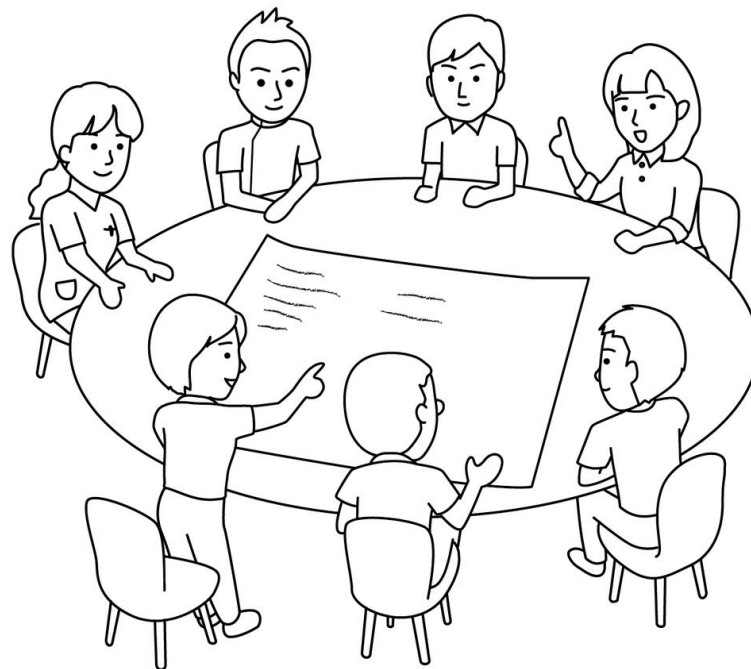


良い評価をもらったということだけで満足してしまい、成長や改善に向けて取組が、次第に行き詰まってしまいます。

そこで、共感を得た要素が、自分が実現したい未来と繋がっているのかを冷静に見極め、改善をし続けます。

Welfare innovation Patterns for Users

高齢者施設での人とモノとの関係性を
考えるパターン・ランゲージ



高齢者施設での人とモノとの関係性を考えるパターン・ランゲージ

- ・ 高齢者施設が人とモノとの良い関係性を作るための「経験則」（コツ）を言語化
- ・ 介護の現場でどのようにモノを使ったらよいのか、**より良い人とモノとの関係性**を考えるための支援ツール

・ モノが来た時に、うまく使いこなせない理由がある。

- ① ものすごく抵抗する人
- ② 過度に期待してしまう人
- ③ よくわからないまま、受け入れてしまう人

・ 一方で、このような問題や悩みに陥らずに、うまく使いこなしてよりよい介護を追求している人がいる。その人たちのコツを共有できれば、解決できるのではないか。

・ そこで、**うまく展開している人たちの経験談から、その秘訣やコツを抽出し、言語化**するパターン・ランゲージの方法で、記述した。

高齢者施設での人とモノとの関係性を 考えるパターン・ランゲージ

CORE
新しい介護を切り拓く

A 目指したい姿を作る

自分の“好き”
あの人いいな！
話して確かめる

お隣の世界観
未来の現場像
自分らしい貢献

認識のすり合わせ
理と情のバランス
ワクワク感の広がり

B チームで動きをつくる

なぜやるのか

新たな提案から

それぞれが主人公

職種・役割を超えて
道具の力
本質の突き止め

活用シミュレーション
目利きの力
モノができること

C 介護の未来をつくる

踏み出す勇気
小さくも大きなスタート
広げるタイミング

慣れる時間

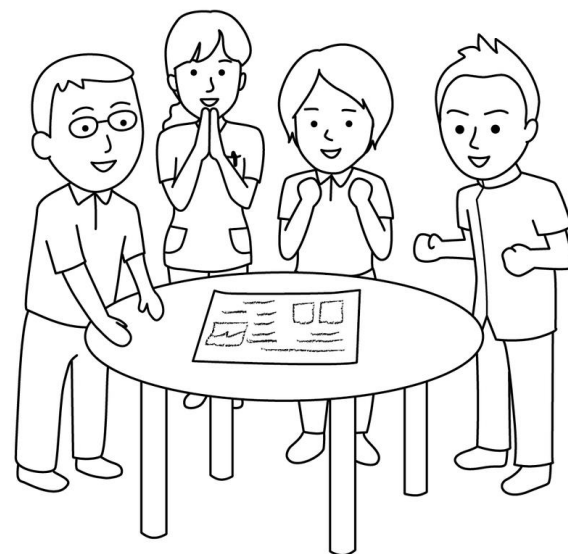
大事なことの確認
軌跡を残す

成功の発信
使い手からの報告

人だからこそ

新たな提案から

新しいことは一つの提案から始まる。

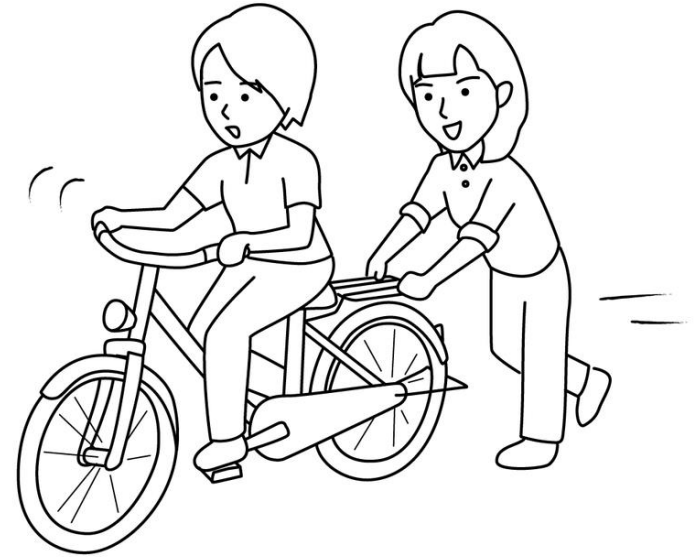


新しい提案を聞く機会が増えてきたのですが、いま良いと思っていることができなくなってしまうたり、熟練させてきた手順が変わったりすることには不安を感じることもあります。

何かをやってみたいと思う人の話は、まずはどんなことが起きるのかイメージしながら耳を傾けてみます。

慣れる時間

モノの導入は使いこなしてから判断する。



一部で成果が出たことを広げていきたいと思い、他の現場にも導入しましたが、あまり活用が進まないようです。

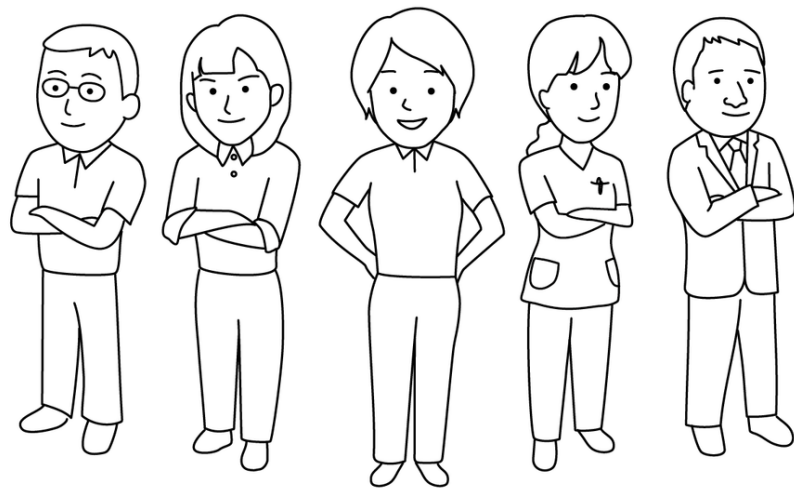
十分に慣れるための期間を取り、**自信を持って使える状態になってから現場での本格的な使用を開始します。**

人だからこそ

モノは人の力を高める道具である。

モノを導入し現場で本格的に活用し始めたのですが、これまで自分が専門としてきたことが必要なくなり戸惑ってしまうこともあります。

モノを活用することで、人だからこそ
できることが増やしていけるのだと捉え、自分がより良いサービスができるように日々の活動を変化させ続けます。



川崎をフィールドに、「産業」と「福祉」の融合

による

新たな活力と社会的価値の創造を進めていきましょう！

